

て名ねい正史の激やそり玉いんるは惜しき人
邦急き水の底にありあは城中あり水日寒ん
うしと流けられいつやまよ或今の死をきふ
きて死せきんうたつた所辱やうふとのく款わ
ひーけく進路しと後代お知者も流す人う
只うして討死せんとはいられいたれどもんつて
る多くら一様凡君の由馬下お後てけあお踏止
て款を防ぎやーしそく西家らねとあふ
許のけまい無家し理後し今のお幣のる下
と信々おお後し五年お川をー北原へそあら

きりり猜みり兄の弟たまりておあし力者と
もおあて二百金人拾得し川通て華白山の林麓お
金幣の馬下お押之款進しそを流けけり
お幣留の流け嶽を下お進し進けり五年と下
知しそたのそ長進もろは無家い武印あふ
おけれい切あふそあいて一防き防くーうは
う次礼しと進くしにそ佐もろくまろこの神お
押おふあお款味力もあふ人おをそやーれ
ハ居あふ肉おあけり比おあふ月二十万の事
けりおと年晴しう白目ておと輝り分けそ